



ももたろうくん

ももたろう通信



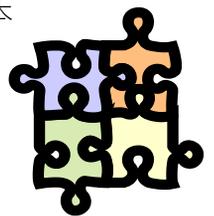
私達は仲間と協力して生活しています

発行日：2020年3月25日
発行：社会福祉法人つどいの家 グループホーム
発行責任者：飯田克也（グループホーム管理者）
住所：〒984-0823
仙台市若林区遠見塚2-16-15（ピボット若林）
連絡先：022-282-4671

※ももたろう通信の由来：仲間と助け合い、共に作る広報誌

新型コロナウイルスの感染が世界的に広がり、国内での感染者数は1,000人を超えています。感染拡大防止のため、イベントの自粛や学校の休校も続いています。当法人においても利用者及び職員等の感染防止のため、移動支援事業を全面休止としました（現在は場所、時間に制限を設け一部再開）。いまわたしたちにできることは、ひとりひとりが感染拡大防止への意識を高めることだと思います。感染のリスクを下げるための対策は・咳エチケットを守る（くしゃみや咳のしぶきは1.5～2メートルは届くそうです）・手洗いをする・環境消毒、換気です（東北医科薬科大学病院感染制御部「感染予防ハンドブック」より）。入居者の方はこうした対策を自身ですることは難しいため、スタッフが細目に行わねばなりません。ヘルパーとの移動支援（お出かけ）を楽しみにしている入居者の方からは日々、こんなメッセージが届きます。「しんぱい事があります。なやみ事があります」「心が重くなります。それが私のなやみです」「元気ありません！早くコロナおわれればいいです」コロナウイルスが流行っているからしょうがないよねという声かけだけでは、入居者の方の気持ちはおさまりません。いまは入居者の「心が重い」気持ちをしっかり受け止め、わたしたちスタッフも一緒に悩むことが大切だと思います。

新型コロナウイルスは、第17回日本グループホーム学会全国大会にも影響を及ぼし、7月に予定していた会場の使用ができなくなり、開催時期が1年延期されることになりました。本号でもお伝えしますが、当法人のグループホーム入居者の方が昨年の東京大会に参加し、その経験から「次は熊本の入居者といっぱい話がしたい」と交流を待ち望んでいました。新型コロナウイルスの影響を考えると開催延期は致し方ありません。大震災を経験した仙台と熊本、スタッフ間の交流はありましたが、入居者間の交流はこれからです。熊本大会は延期されますが、大会までに入居者のつながりが少しでも持てるようにしていきたいと思います。



（グループホーム管理者 飯田）

グループホーム紹介～ひかりはうす編～



「グループホーム紹介ひかりはうす」編です。今回は笑顔がとっても素敵なTさんのひかりはうすでの様子を紹介します。

Tさんと言えば人との関わりが大好き！初めて会う人には緊張してうつむいてしまうこともあります。実はとても気になり後ろ姿を目で追うことがあります。言葉を用いたコミュニケーションは難しいですが、慣れてくるとTさんから手を伸ばしてくれることもあります。伸ばした手に「タッチ」で答えると「あはっ！うふっ！」と笑顔で返事してくれます♪

また、Tさんは賑やかで楽しい雰囲気やお出かけも大好きです。中でもスポーツ観戦など白熱した雰囲気を感じられるようなお出かけは満面の笑顔で頭を振り、手を叩いて体いっぱい気持ちを表現します。時には座りながら笑顔でジャンプすることもあります！言葉を用いたコミュニケーションは難しいとTさんですが、メンバーの様子や職員の話はとても良く聞いており、喜怒哀楽の表現が豊かです。ひかりはうすのメンバーが笑うとTさんもつられて笑顔になります。私達はそんなTさんの表現を大切に、毎日楽しく過ごせるように関わっています。上の写真は昨年のGWにひかりはうすメンバーで秋保大滝に行った時の写真ですが、大好きなメンバーとのお出かけに勝る楽しみはありませんね！とても素敵な笑顔を見せてくれました。



「かわいい！」と言われるとちょっぴり照れちゃう、女性らしさに溢れたTさん。これからも素敵な笑顔で楽しく過しましょう！

以上、グループホーム紹介「ひかりはうす編」でした(^O^)皆さんもぜひTさんに会いに来てくださいね！

(記:伊達直美)





グループホーム学会全国大会 (11/9~10)in東京参加レポート



Sさんと一緒に日本グループホーム学会へ。MOTTOのトラベルサービスを利用しての東京1泊2日のツアー。事前の打ち合わせを重ね、目的の全国のグループホームに入居している方たちとの交流の場「入居者大集合」参加がメインでしたが、それ以外の時間も楽しめる旅行を目指し2人で楽しむことができました。電車が好きなSさんと新幹線、地下鉄を乗り継ぎまずはホテルへ。オリンピック間近の東京でしたが地下鉄は車いすに優しくない駅もありツアー最大の難所でした。

Sさんは2日間の学会参加のなかで、講演を聞きながら、グループホームでの自身の生活について、講演を聞いたうえで、これからの生活を自分の考え、言葉で私に伝えてくれました。入居者大集合では参加者全員の前で震災時の自身の体験談、その時の思いをマイクを通してしっかりと伝えていました。「学会参加」以外の時間では食べたいものを食べ、行きたいところに行き、話したいことを話す。男二人で東京旅を満喫し、次の旅行の企画？も。お互いの意外な面を見せ合いながら、楽しい旅時間を過ごしてきました。次のお誘いお待ちしております。
(記：MOTTO代表 斎藤義久)



お母様が付いて行かない宿泊旅行は初めてのAさん。Aさんのお母様は眠れなくなるぐらい心配で心配で・・・でも、Aさんは全然平気。夜もしっかり眠れていました。強いて言えばAさんの心配は「みんなの前でちゃんとしゃべれるかな？」と、いうことでした。



二日目のセッションはグループ分けされて原則ヘルパーは付添いません。「Aさんどうする？私はいなくても大丈夫？」と、聞くと「いなくていいよ！トイレの時呼ぶね」と、堂々としたもので・・・私は「気」を消して近くで見守っていました。「お部屋に鍵は付いていますか？」「ありませ～ん」と、元気に答え○と×の札もちゃんと挙げられています。

それはなぜかと言うと・・・仙台大会で出会った「お友達」がAさんを助けてくれたのでした。

帰りには「また熊本で会おうね！」「絶対ね。約束ね！」と、お友達と握手。Aさんの世界が広がっていく！「つどいの家のAさん」ではなく「仙台に住んでいるAさん」です。お友達ができるって素晴らしい！今度は名刺を持っていきたいそうです。「もっとお友達を作るんだ」と話していました。
(記：佐伯美佳子)



仙台市グループホーム連絡会視察研修参加レポート

昨年11月に千葉県船橋市にある社会福祉法人さざんか会のグループホーム2件、入所施設1件を視察させていただきました。

今回の研修で学んだことは、グループホームに入居する前段階の重要性です。さざんか会では入所施設においてグループホームに移行することを想定して支援を行っていました。そうすることで移行した時に入居者との関わり方、ひとりひとりに合わせた住環境を提供しています。ソフト面とハード面、両輪が回ることで入居者の方が落ち着いて暮らせるホームが出来るのだと感じました。

さざんか会がある船橋市では障害者福祉に積極的な関与と手厚い補助金があり（家賃補助が2万円）、行政との連携と金銭的なバックアップの重要性も感じる事が出来ました。

私は日々、支援の方法（関わり方）に力を注いでいて、住環境（ハード面）についての意識がかけていたことに今回の研修では気づかされました。繊細な感受性を持つ障がいがある方にとって間取りや物の配置のずれは大きなストレスになり兼ねず、ホーム（自分の家）なのにリラックス出来ないということになるかもしれないと考えるようになりました。ただ、カスタマイズされていないホームでも出来ることはあります。日々の観察力を磨き常に「考える」姿勢でいることです（例えば変化に弱い入居者の方がいれば極度な模様替えを行わない、気持ちが落ち着かなくなるようなものがおいてあれば取り除くなど）。

特性、こだわりは変化していくこともあります。その変化に対応するために常に「考える」姿勢を忘れず支援していこうと思いました。

さざんか会の宮代理事長をはじめスタッフの皆様、お忙しいところ視察をさせていただき、ありがとうございました。

（記：宮本充）



グループホーム「たんご」の外観



グループホーム「たんご」のリビングの様子

【編集後記】

今年も花粉の時期がやってきましたね... 鼻や喉、目と次々に症状が出始め、春の訪れを感じている今日この頃です。運転中にくしゃみが出そうになると、できるかぎり目を閉じずハンドルは動かさないように努力しています。花粉などが落ち着いて、一日でも早く不安なくお出かけができるようになることを楽しみに頑張っていきたいと思います。

（記：坂本裕美）

